

## 救い主のしるし

加藤 享

### [聖書]ルカによる福音書2章1～21節

#### イエスの誕生

そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリヤ州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなすけのマリアと一緒に登録するためである。ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

#### 羊飼いと天使

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。

そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思った。しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりのだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

### [序] 住民登録の騒ぎの中で

クリスマスは、言うまでもなくイエス・キリストの誕生を祝う祭です。聖書によりますと、ローマ皇帝アウグストの勅令で、住民登録が実施され、人々は皆、出身地で登録することになりました。ナザレの村大工ヨセフは出身地のベツレヘムまで、身重な身体のマリアをロバに乗せて、150kmの旅をしなければなりません。人々が一斉に移動を開始したのですから、道も町も混み合ったことでしょう。税金を取り立てるための調査です。権力者の一声で、民衆は日常生活を乱されて、いいように搾取されるのです。

### [1] 天使のお告げ

ベツレヘムの町に着いたものの、宿屋はどこも満員。ヨセフとマリアは家畜小屋で夜を過ごすことになったのでしょう。長旅で疲れたマリアは、そこで男の子を出産したのでした。なんと気の毒なことでしょうか。夫のヨセフは、何もしてやれない自分が情けなくて、つらかったことと思います。

しかし讚美歌「きよしこの夜」は、こう歌っています・

「きよしこの夜 星はひかり 救いのみ子は ねむりたもう いとやすく」

「きよしこの夜 み子の笑みに 恵みのみ代の あしたの光 かがやけり ほがらかに」

一方、郊外の野原では、羊飼いたちが野宿しながら、夜通し羊の群れの番をしていました。彼らは町の中の雑踏とは別世界の人たちでした。きっと住民登録の資格もない、最も卑しい身分の人たちだったのでしょう。ところが突然天からの光に包まれて、震え上がってしまいます。光の中から天使の声が聞こえてきました。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

そして神を賛美する合唱が響きわたりました。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」。この異常な経験に、貧しい羊飼いたちは、驚き、震え上って、身動きできなくなってしまったのでしょうか。

違います。羊飼いたちは、天使たちが天に上っていくと、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を、見ようではないか」と話し合い、急いでベツレヘムの町に出かけて行って、マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てたのです。偉いですね。否、救い主の誕生という知らせは、貧しい羊飼いにとっても、待ち望んでいるニュースだったのです。

そして家畜小屋の飼葉桶だからこそ、羊飼いたちは、直ぐに探しに出かけて行けたのです。これがヘロデ王の宮殿とか、祭司の家とか、町の有力者の家等だったら、そうはいきません。彼らは、羊の匂いのしみ込んだ汗まみれの汚い衣服をまとっている、卑しい最下層の羊飼いだからです。門前払いされるに決まっています。飼葉桶の中に寝ている乳飲み子だからこそ、弱い者、卑しい者、小さな者でも近寄って、恵みに与かることが出来るのです。

## [2] 共に生きて下さるイエス

私が札幌教会にお仕えしていた時、新聞に死刑囚の書き残した歌が紹介されました。「イエス・キリストのお誕生は、遠い昔の遠いベツレヘムの出来事ではありません。この独房の中でも、お誕生してくれました。私の体は家畜小屋、私の心は飼葉桶。私の罪を贖って、愛と永遠の命を満たすため救い主イエスは、今日、私の中に、生まれてくれました。クリスマスは、大きな喜びの時なのです。」

この死刑囚は、飼葉桶のように汚い心で、幾人も人を殺してしまった自分のような者の所へも、イエスさまが来て下さったと、感謝したのです。イエスさまがお住みになれない心など、ないのです。イエスさまは、どんな人をも救おうとして、一番卑しい家畜小屋で生まれ、飼葉桶をベットにして、寝て下さったのです。

ノーベル平和賞を受けたマザー・テレサは、カルカッタの町の路上に倒れて死を待つ人を、愛の家に運び込んで、体を洗い、傷や病の手当をし、食事を与えて、安らかに生涯を閉じる助けを、ひたすらに続けました。その人の宗教でお葬式を営み、天国へ送りました。

「わたしの兄弟であるこの**最も小さい人**にしたのは、わたしにしてくれたのである」(マタイ25:40)とおっしゃったイエス・キリストの言葉がいつも、**マザーの心**に響いていたからです。貧しい誕生をされた救い主は、この最も小さい人の中に、共に居て下さるとの信仰ですね。

「スラムの貧しい人々の姿の中に**キリスト**を見ます」というマザーの言葉に動かされて、**23才の青年**がカルカッタに行きました。しかし人をこき使い、気に入らないと食器を投げつける人の中に**キリスト**を見つけることができず、**空しく**帰ってきました。しかし**14年後**に、再び出かけました。

或る日、**栄養失調**で骨と皮だけになり、虚ろな目で横たわっている人の体に、油を塗っていました。針金のような細い腕をさすりながら、ふと「こんな体になるまで、この人は一体どれほどの**辛い**思いをしてきたのだろう」と思いました。すると今触っている彼の腕から、彼の**悲しみ、傷み、孤独**が手に伝わって体に流れ込んでくるような思いがして、**涙があふれた**そうです。そして「この人の**悲しみ、傷み、孤独**の中に、確かに**イエスさま**が居られる。イエスさまが**共に**悲しみ、傷み、孤独を担っておられる」とはっきり感じたそうです。

23才の時には、何故イエスさまを見つけることが出来なかったのか。彼はこう語っています。「**イエスさまに合いたい**。どうしたらイエスさまを見つけられるかと、**自分の思いにとらわれていて、相手を見ていなかった**からです。14年たって、相手の苦しみと正面から向い合い、その苦しみを思いやる事が出来たからなのです。イエスさまは、**貧しい人の苦しみの中に居て、私たちがその苦しみを共感**することで、イエスさまを見つけ出すようにと、待って居られることが分かりました。」

#### [結] 飼い葉桶から十字架まで

神さまとは、どのようなお方なのでしょうか。「**神は愛である**」これが聖書のメッセージです。ではどのような愛なのでしょうか。「**私を見た者は神を見たのである**」(ヨハネ14:9)とイエス・キリストはおっしゃいました。私たちの人生は、誕生で始まり、死をもって閉じます。その**全生涯**が私という人間を物語ります。**イエス・キリストの全生涯**が、**神さまを現わしている**のです。

イエス・キリストの生涯は、家畜小屋で始まりました。多くの人々が我が家の布団の中で眠っている時に、野宿して羊を見守っている**貧しい羊飼**いたちは、飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を、**救い主のしるし**と天使から教えられて、探し当てました。

救い主キリストとしての働きも、弱い者、苦しむ者、貧しい者に寄り添いつつ、共に生きられました。使徒パウロが語っています。「**主は豊であったのに、あなたがたのために貧しくなられた**。それは、**主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです**」(Ⅱコリント8:9)

そしてその生涯は、**十字架の死**で終わりました。それは権力者たちの自己保身、権力欲、妬みによる死刑執行でした。しかしキリストは、争うことなく彼らの**その罪**を一切我が身に引き受けて、赦しを祈りつつ死んでいかれました。

ご自分の命をもって、自分を殺す者の**罪を贖う死**を遂げられたことで、敵をも愛する**神さまの究極の愛**をお示しになりました。神さまは、この愛が死をもって朽ち果てるものではないことを、墓の中からの**復活**をもってお現しになりました。**神の愛の究極的な勝利**です。

このように、神さまが**愛の神さま**であることを、**貧しさ**によって私たちにはっきりと示して下さい。救い主イエス・キリストのご生涯、その始まりが**クリスマス**なのです。

私たち夫婦も老い衰えてきました。これから先、どのような日々が待ちうけているのでしょうか。何一つ出来なくなり、一切をお世話になる身となるでしょう。でも**飼い葉桶の中に安らかに身を横たえてくださった**イエスさまが、**貧しい私の中にも共に居て下さる**のです。神さまの愛に包まれて、心安らかに全てをお任せしたいと、心を定めています。

皆さん方も、飼い葉桶の救い主を**ご自分の救い主**として心にお迎えし、愛の神さまと共に、**平安と喜び**をもって、**感謝しつつ**生きてくださいますように。

祈ります:愛の神さま、クリスマスにあたり、飼い葉桶に始まる救い主のご生涯を学び直すことが出来ました。感謝いたします。貧しさに生き、貧しさに寄り添い、神さまの愛を現わして下さい。イエスさまを、私の救い主と信じます。イエスさま、貧しい私を愛の豊かな者にして下さいますように、お願いいたします。大切な命を殺す罪をどうぞ、止めて下さい。平和をお与え下さい。救い主イエス・キリストの御名によって、お祈りいたします。 アーメン